



科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

砂浜を這(は)う

ハマゴウ (クマツヅラ科)

Vitex rotundifolia

姫路科学館長 古角 孝之

本種は、日本(東北地方南部から琉球列島の各島)をはじめ、韓国・中国・台湾・東南アジアやオーストラリアの海岸や砂浜に生える常緑または落葉小低木です。姫路市では的形海岸や大塩海岸などの砂浜にハマヒルガオ・コウボウムギ・コウボウシバ・ハマボウフウなどとともに自生しています。これらをまとめて海浜植物ともいいます。

7月から9月にかけて、枝先に芳香のある青紫色の花を円錐花序(えんすいかじょ)につけます。葉は対生で、裏面は白い毛で被われています。海辺の砂浜を這うように生育しているところから「ハマハウ」または「ハマホウ」、全体に芳香があるところから「ハマコウ(浜香)」と呼ばれていたものが転訛してこの名がつけられました。



以前は砂浜に普通に見られる植物でしたが、特に瀬戸内海地域では、護岸の整備と海砂の採取などによる海岸の浸食によって砂浜がせばまり、本種およびこの群生地が減少しています。

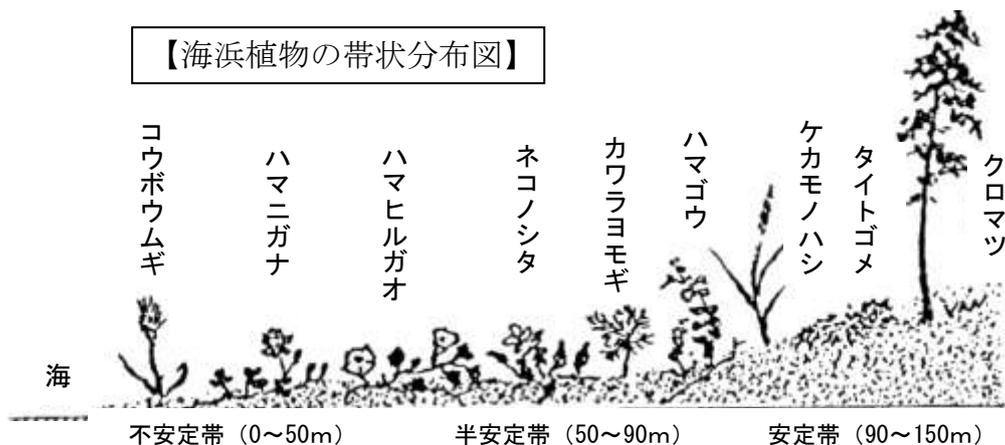
■ハマゴウなどの海浜植物の特徴

海辺の厳しい環境下（強い風・潮風・塩分・強い日差し・乾燥・貧弱な土壌養分）に適応するために、次のような特徴を持っています。

- ① 風の抵抗を少しでも受けないように、海からの風の方向と反対方向に枝を曲げて成長している。
- ② 強い風に吹き飛ばされないように、背丈が低かったり、根を広く伸ばしていたり、地下茎でつながっていたりしている。
- ③ 真水を吸収するために、根が地中深く伸びている。
- ④ 強い日差しや乾燥に耐えられるように、葉の表面に光沢があったり、葉が肉厚になっていたりする。
- ⑤ 打ち上げられた海草を枝で止めて土壌を肥やし、それを栄養分として取り入れている。

■ハマゴウなどの海浜植物の砂浜における分布

砂浜は、波打ち際から不安定帯（波しぶきがかかったり、潮風の影響で砂の影響が激しい領域）、半安定帯（波しぶきや潮風の影響がやや少ない領域）、安定帯（波しぶきや潮風の影響をほとんど受けない領域）に分けることができ、それぞれの環境に適応する体のつくりを持った植物の分布が見られます。



※島根県環境学習プログラム参照

■ハマゴウの用途

○薬用

- ・日干しした果実（蔓荊子：まんけいし）、陰干しした茎葉（蔓荊葉：まんけいよう）を煎じて服用する。—— 滋養強壮・解熱・消炎作用がある。
- ・陰干しした花期の茎葉をお風呂に入れる。—— 冷え症・肩こり・神経痛・腹痛・筋肉痛に効能がある。

○香料（線香）

樹皮とシキミの葉、モクレンの樹皮を合わせて粉末にして作る。

○染料

茎葉の灰汁を使用する。